

【乳汁検査まとめ】

はじめに

2024年1月~6月において弊社にて実施した乳汁検査の結果をお伝えしたいと思います。

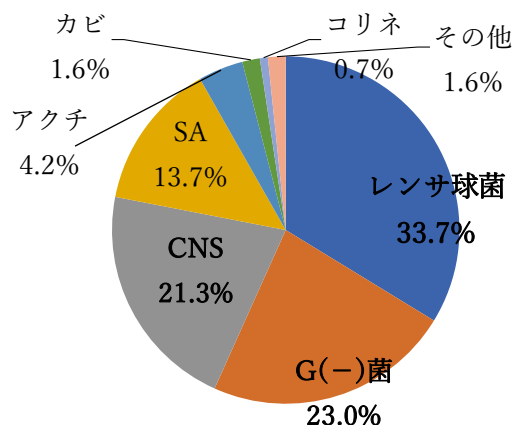
検査頭数は809頭、検査分房数は1614分房で、菌の生えた分房数は789分房、菌の検出されなかった分房数は825分房でした(それぞれ重複を含む)。

略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
ERFX	バイトリル 10%	—
ST	トリオプリン	—
T	OTC 注	OTC 軟膏

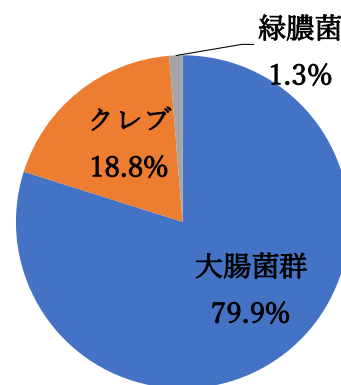
原因菌種割合

菌が検出された検体の中での雑菌を除く原因菌種割合を以下に示します。最多はレンサ球菌(※1)で、2番目に多かったのはG(-)菌(※2)でした。次いでCNS、SAと続きます。レンサ球菌、G(-)菌、CNS、SAで全体の約90%を占める結果となりました。



グラフ1 原因菌種割合

- ※1 レンサ球菌にはOS、ウベリス、エンテロコッカスを含む
- ※2 G(-)菌には大腸菌、その他の大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌を含む
- ※ アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネ、酵母様真菌をカビと表記



グラフ2 G(-)菌割合

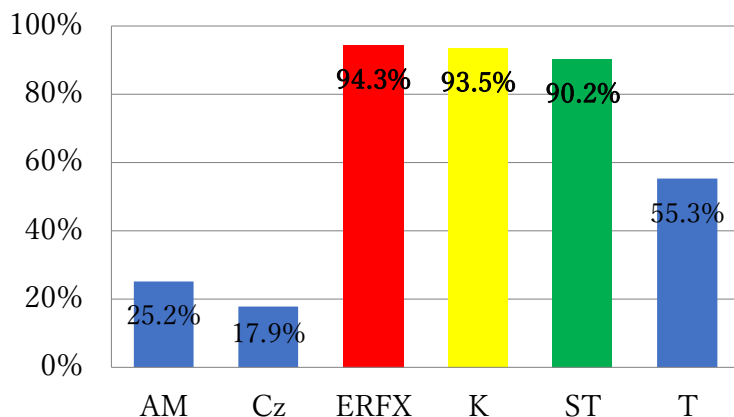
※大腸菌群は大腸菌、その他の大腸菌群を含む

※クレブシエラをクレブと表記

グラフ1にてG(-)菌としたものの内訳です。G(-)菌の発生分房数は154でした。大腸菌群が123分房で、割合は79.9%となり最多でした。クレブシエラは29分房で、割合は18.8%でした。緑膿菌は2分房で、割合は1.3%でした。

G(-)菌感受性割合

大腸菌群(154)



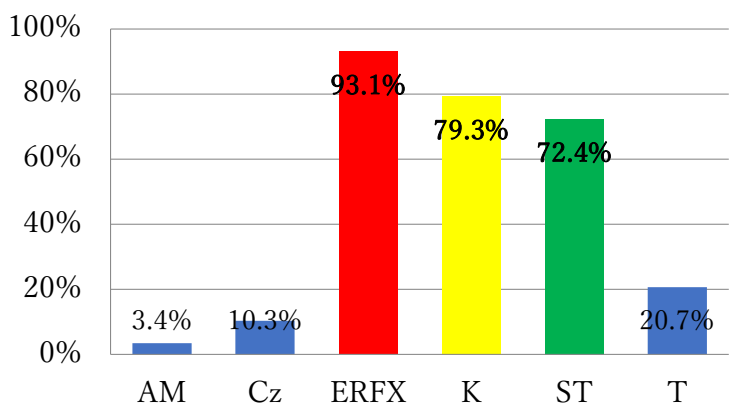
グラフ3 大腸菌群感受性割合



Total Herd Management Service

感受性割合の上位3つの薬品はERFX(バイトリル 10%)、K (カナマイシン・タイニーPK)、ST (トリオプリン) で、どれも感受性割合は90%を超えています。T(OTC注、OTC軟膏)の感受性割合が昨年の66.9%より低下した55.3%でした。

クレブシエラ (29)



グラフ3 クレブシエラ感受性割合

感受性割合の上位3つの薬品は大腸菌群と同じERFX(バイトリル 10%)、K (カナマイシン・タイニーPK)、ST (トリオプリン) です。大腸菌群と比較してERFX(バイトリル 10%)は同程度、K (カナマイシン・タイニーPK)、ST (トリオプリン) は感受性割合が低い結果となりました。T(OTC注、OTC軟膏)は昨年の54.2%より下降して20.7%となり、依然低い感受性割合です。

緑膿菌は検出分房数2で、ERFX(バイトリル 10%)、GM (ゲンタマイシン) がそれぞれ1ずつ感受性ありでした。サンプル数が少ないため参考程度にお考え下さい。

最後に

大腸菌群、クレブシエラどちらもERFX(バイトリル 10%)、K (カナマイシン・タイニーPK)、ST (トリオプリン) の3薬品が高い感受性割合を示し、T (OTC注・軟膏)は大腸菌群では55.3%、クレブシエラでは20.7%で依然低い感受性割合を示しました。

大腸菌やクレブシエラを疑う乳房炎に対しては、臨床症状等でこの2菌種を区別することは難しく、検査してみないと判定できません。このことと、T(OTC注、OTC軟膏)の感受性割合を踏まえると、例年の結果同様、依然として最初の抗生剤選択において、T(OTC注、OTC軟膏)は選択しづらいと考えられます。乳房炎において自家治療(軟膏治療)を行

う場合、G(-)菌の可能性を考慮してタイニーPKを使用する農場が多い様に感じます。大腸菌、クレブシエラ共に80%近くの感受性割合を示しています。タイニーPKは第一選択薬として以前問題ないと思われま

今年も熱い予報がなされています。これから益々乳房炎が増加する季節です。菌種、感受性薬剤をしっかり調べて、適切な治療を行いましょう。

来月はSAやOS等のG(+)菌の感受性割合を紹介いたします。

富田大祐



Total Herd Management Service